

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	観光推進課	職	課長	氏名	浅田 隆
評価者	組織	観光振興課	職	課長	氏名	新谷 和幸
評価者	組織	首都圏戦略課	職	課長	氏名	竹内 政則

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	3大都市圏誘客1000万人構想の推進と 海外誘客10倍増構想の推進	観光入り込み客数	千人	25,000 (H27)	20,985 (H23)	21,055 (H24)	B

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み					評価	
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の 有効性	今後の 方向性	
					(年度)	(年度)							
施策1	課題1	体験交流観光の推進	グリーン・ツーリズム参加者	千人	2,800 (H27)	2,345 (H23)	2,232 (H24)	グリーン・ツーリズム交流拡大事業費	農山漁業従事者	3,000	2,252	B	統合
	課題2	観光地や温泉地の魅力アップと活性化	観光地入り込み客数	千人	54,886 (H27)	40,003 (H23)	39,415 (H24)	1 観光地活性化推進事業費	市町等	24,320	24,320	B	継続
								2 ナイトツアー開発支援事業費	一般観光客	4,000	4,000	B	継続
								3 いしかわスイーツ博開催事業費	一般観光客	15,000	15,000	B	継続
	課題3	イベント、コンベンションの振興	コンベンション開催・参加者数	件・人	400・96,800 (H27)	362・73,999 (H23)	393・93,112 (H24)	1 戦略的コンベンション誘致推進事業費補助金	コンベンション主催者	5,000	5,000	A	継続
								2 フードピア開催費補助金	一般観光客	5,040	5,040	B	継続
								3 金沢城・兼六園四季物語開催事業	一般観光客	9,082	9,082	A	継続
	課題4	おもてなしの充実	観光地入り込み客数	千人	54,886 (H27)	40,003 (H23)	39,415 (H24)	再掲 観光地活性化推進事業費	市町等	24,320	24,320	A	継続
	課題5	人材の育成	ボランティアガイド団体・参加者数	団体・人	30・800 (H27)	25・836 (H23)	27・882 (H24)	ウェルカムいしかわ推進事業	観光事業者、一般県民	8,300	8,300	B	継続
	課題6	効果的な情報発信	観光地入り込み客数	千人	54,886 (H27)	40,003 (H23)	39,415 (H24)	1 ほっと石川観光キャンペーン事業費	三大都市圏等観光客、旅行業	47,980	47,980	B	継続
								2 首都圏交通機関タイアップ情報発信事業費	首都圏観光客	8,000	8,000	A	拡大
								3 国内戦略の情報発信事業費	県外観光客	6,000	6,000	A	見直し

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	グリーン・ツーリズム交流拡大事業費	事業開始年度	H19	事業終了予定年度		作 組 織 観光振興課
		根拠法令・計画等	新ほっと石川観光プラン	成 職・氏名	技師 中村 恵美	

(事業の背景・目的)

都市と農山漁村の交流拡大を図るため、農家民宿開業講座の開催や温泉地と連携した着地型観光メニューづくりなど、受け入れ体制の整備に取り組み、本県におけるグリーンツーリズムの受入体制の推進を図る。

(事業の概要)

- 1 受入体制整備事業
 - (1) 農家民宿開業講座・相談会の開催
 - (2) 体験にかかる安全性確保のための研修会の開催
- 2 グリーン・ツーリズム誘客推進事業
 - (1) 温泉観光協会との連携
 - ・温泉地の宿泊者をターゲットとしたグリーン・ツーリズム体験への誘客を図るため、グリーン・ツーリズム研究会と各温泉観光協会の協力体制を構築
 - ・体験等メニュー(2時間程度の体験)化、システム化の検討
 - (2) グリーン・ツーリズムガイドマップの作成(7,000部)
 - (3) グリーン・ツーリズムイベントパンフレットの作成(7,000部×2回)
- 3 子ども農山漁村交流プロジェクト推進事業
 - (1) 地域の受け入れ協議会の指導
 - (2) ホームページ、雑誌等でPR
 - (3) パンフレット作成による学校への事業の活用PR

事業の効果

- (1) リピーターの確保が図られる。
- (2) 長期に受け入れることにより、受入者の経営安定につながる。

これまでの見直し状況

・子ども農山漁村交流プロジェクトは、H20年度に奥能登地域、H21年度には七尾地域、H22年度は志賀町において受入協議会を設立。

施策・課題の状況

施策	3大都市圏誘客1000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進				評価	B
課題	体験交流観光の推進					
	指標	グリーン・ツーリズム参加者			単位	千人
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	2,800	2,296	2,368	2,328	2,345	2,232

事業費

	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	3,600	3,600	3,460	3,000	3,000
	決算	3,600	3,600	2,263	2,133	2,252
一般	予算	2,000	400	400	400	400
	決算	2,000	400	400	400	400
財源	事業費累計	22,250	25,850	28,113	30,246	32,498

評価

項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	民宿開業講座の開催の効果等により今年度で新規で農家民宿を開業した者(4軒)が出てきたことや、グリーン・ツーリズムの誘客促進活動を展開してきたことにより、体験交流観光が促進され、グリーン・ツーリズム参加者の維持につながった。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	統合	「いしかわ型ニューツーリズム推進事業」に統合し、「人とのふれあい」に焦点をあてた「ふれあいと体験の旅事業」として情報発信等を行い、本県への旅行意欲の喚起及び旅行後の継続的な交流の促進を図っていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	観光地活性化推進事業	事業開始年度	H20	事業終了予定年度		作 組 織	観光振興課
		根拠法令・計画等	新ほっと石川観光プラン	成 職・氏名	主事 清水 敦人	者 電話番号	076 - 225 - 1538 内線 3948

(事業の背景・目的)

温泉地に代表される主要観光地等の活性化を図るため、県の「新ほっと石川観光プラン」を踏まえ、各観光協会、広域観光協会等が実施するハード・ソフト事業に対し、支援を行う。

(事業の概要)

観光地ブランド化推進支援事業 24,320千円

1 観光地ブランド化推進事業(ソフト事業)

(1) 対象事業

- 観光地の活性化を図るため、市町が策定した観光振興計画に基づき新たな観光資源の掘り起こしや地域の個性を活かした観光地づくりなどのブランド化を図るソフト事業に対する支援
事業例：観光資源のブランド化、個性あるイベントの実施など
- 外国人観光客の受入整備に係るソフト事業に対する支援
事業例：外国人観光客に対応したパンフレットの作成、総合案内サインの整備、人材育成など

(2) 交付先：市町

(3) 経費負担：1/3(上限4,000千円/温泉地等)、市町1/3、実施主体(観光協会等)1/3

2 観光地広域連携推進事業

(1) 対象事業

- 広域的に観光地の魅力を高めるための受入整備や集客力・利便性の向上を図るソフト事業に対する支援

(2) 交付先：広域観光協会

(3) 経費負担：県 1/3(上限5,000千円/協会)、実施主体(広域観光協会) 2/3

3 観光地活性化整備事業 (ハード事業) 平成24年度は要求なし

(1) 対象事業

- 各市町が策定した計画に基づき、観光客の利便性向上や観光地の魅力をアップするためのハード事業に対する支援
事業例：案内看板の整備、駐車場の整備など

(2) 交付先：各市町 (総湯等温泉施設の事業主体が総湯管理団体の場合は、総湯管理団体)

(3) 補助率、補助限度額

- ①補助率：事業費×(1-地元負担1/10)×1/4以内
- ②補助限度額：10,000千円(事業費10,000千円以下の事業は、補助対象外とする。)

(これまでの見直し状況)

H17：「個性豊かな温泉地まちづくり推進事業費補助金」、「温泉地街並み等修景整備促進事業費補助金」、「快適観光空間整備促進事業費補助金」を廃止。「観光地等再生計画策定支援事業費補助金」を統合「観光地魅力創出整備事業」、「観光地魅力創出推進事業」、「ユニバーサルデザイン推進事業」を創設
H19：「観光地魅力創出整備事業」、「観光地魅力創出推進事業」、「ユニバーサルデザイン推進事業」を廃止

施策	3大都市圏誘客1000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進	評価	B
課題	観光地や温泉地の魅力アップと活性化		
指標	観光地の入り込み客数	単位	千人
目標値	現状値		
平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
54,886	38,960	39,823	41,033
	平成23年度	平成24年度	
	40,003	39,415	

事業費						
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	28,800	28,800	26,120	26,120	24,320
	決算	22,250	28,800	26,120	26,120	24,320
一般財源	予算	28,800	28,800	26,120	26,120	24,320
	決算	22,250	28,800	26,120	26,120	24,320
事業費累計		22,250	51,050	77,170	103,290	127,610

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	温泉地の新たな魅力付けに寄与したほか、地元でも関連イベントが開催されるなど、本事業を通じて魅力的で個性ある観光地の形成に向けた取り組みが進められたことにより観光地への入り込みが維持されるなど一定の効果が得られた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本県観光の継続的な発展のためには、観光地や温泉地へのリピーター客の定着が重要であることから、観光地を常日頃から磨き上げていくことはもとより、新たな魅力の創出を図り、何度訪れても飽きない新鮮な観光地を形成していくことが重要である。 このため、地域の特性を活かした魅力ある観光地となるため、地元自治体、観光関係団体、地域、観光業界などが引き続き一体となり、取り組んでいく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 ナイトツアー開発支援事業費	事業開始年度 H22	事業終了予定年度	作 組 織 観光振興課
	根拠法令・計画等 新ほっと石川観光プラン		成 職・氏名 専門員 北澤 宏之
			者 電話番号 076 - 225 - 1542 内線 3925

事業の背景・目的
北陸新幹線金沢開業を見据え、本県の夜の観光資源を組み込んだ旅行商品の造成や、販売の拡大に取り組もうとする意欲的な旅行会社等の取り組みを支援することで、本県で宿泊しなければ体験できない旅行商品の造成を促進する。

事業の概要

1 事業内容
石川の夜の観光資源を活用したモデルツアーを公募し、広報費等の助成を行う。

(1) 助成対象者
石川県内に事務所、事業所を有する旅行業者及び観光協会等

(2) 助成対象事業
本県の夜の観光資源を組み込んだ旅行商品の造成・販売事業

(3) 助成内容
定額(1件あたり上限50万円) ※ただし予算の範囲内とする

(4) 助成対象経費
企画費、広告宣伝費、調査費など

(5) 公募期間
夏 平成24年4月中 冬 平成24年11月中旬

(6) 採択件数
8件(和倉温泉ほろ酔い巡り、白山スーパー林道御来光ツアーなど)

2 実施主体
石川県・(社)石川県観光連盟

3 事業費
4,000千円

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	3大都市圏誘客1000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進			評価	B	
課題	観光地や温泉地の魅力アップと活性化					
	指標	観光地の入り込み客数			単位	千人
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	54,886	38,960	39,823	41,033	40,003	39,415
事業費						
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算			2,000	1,500	4,000
	決算			2,000	1,500	4,000
財源	予算			2,000	1,500	4,000
	決算			2,000	1,500	4,000
	事業費累計		0	2,000	3,500	7,500
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	夜の観光資源を組み込んだ旅行商品の造成支援等により、観光入り込み客数及び宿泊客数について、前年度並みの水準を維持するなど、一定の成果があったと考えている。 県内宿泊客数 H23 6,872千人 H24 6,852千人				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	夜の観光資源を組み込んだ商品造成支援を行うことで、宿泊客の増に一定の効果があると考えられるため、引き続き事業を実施していく。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 戦略的コンベンション誘致推進事業費補助金	事業開始年度 S63	事業終了予定年度	作 組 織 観光振興課
	根拠法令・計画等	新ほっと石川観光プラン	成 職・氏名 専門員 小林 満美子
			者 電話番号 076 - 225 - 1539 内線 3921

事業の背景・目的
 学会等の誘致を促進するために、(財)金沢コンベンションビューローが実施する各種PR活動を支援し、地域経済の活性化を図る。

- 事業の概要**
- 1 コンベンション誘致事業
 - ・誘致活動の実施
 - ・広告掲載、コンベンション開催地をPRするための情報発信
 - 2 コンベンション開催支援事業
 - ・接遇研修の開催、コンベンションナビ、ランチマップの作成など、おもてなしの推進
 - ・コンベンション開催意向のアンケートなどコンベンションに係る調査を実施
 - 3 戦略的コンベンション推進事業
 - ・国際コンベンションの情報収集、キーパーソン招請など、日本政府観光局マーケティング事業を活用して実施する。
 - ・東京で開催される国際ミーティング・エキスポに参加するほか、より多くの開催決定者との商談を行う。
 - 4 コンベンション活性化推進事業
 - (1) 着地型情報提供事業
 - ・コンベンション参加者にとって利便性が高く、持ち運びやすいサイズのガイド冊子を街中の回遊性向上や消費拡大につなげる着地情報として配布・提供する。
 - (2) インターネット発信強化事業
 - ・コンベンション主催者及び参加者に対し、注目度を高めるホームページを展開するほか、「YouTube」を利用して動画のリンクや、Googleマップを活用した施設検索など利便性を高める。
 - (3) 加賀・能登ランチ活性化事業
 - ・加賀及び能登に各ランチを設置し、県下全域にコンベンション事業を浸透、普及させ、速やかに誘致・支援・受入を図るための活動をする。

これまでの見直し状況
 平成12年に加賀・能登ランチを小松・七尾商工会議所内に開設し、コンベンションの県下全域対応ができるよう、組織強化を図った。

施策・課題の状況

施策	3大都市圏誘客1000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進	評価	B		
課題	イベント、コンベンションの振興				
指標	コンベンション開催・参加者数	単位	件・人		
目標値	現状値				
平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
400	302	324	353	362	393
96,800	92,237	74,715	75,575	73,999	93,112

事業費						
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
事業費	予算	4,820	4,952	4,952	4,952	5,000
	決算	4,820	4,952	4,952	4,952	5,000
一般	予算	4,820	4,952	4,952	4,952	5,000
	決算	4,820	4,952	4,952	4,952	5,000
事業費累計	96,010	100,962	105,914	110,866	115,866	

評価

項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	海外及び国内のトレードショーへの参加・情報提供や国際会議等のキーパーソンの招聘など積極的な誘致活動を展開したことにより、会議の開催及び参加者数が大幅に増加した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	石川県へのコンベンション誘致を進めるため、平成21年3月に「石川県コンベンション誘致推進計画」を策定した。平成26年度の北陸新幹線の金沢開業を見据え、「コンベンション誘致推進計画」に基づき、企業等への直接訪問による計画的アプローチにより、年度間及び季節毎にバランスのとれたコンベンションの誘致に引き続き取り組んでいく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	フードピア開催費	事業開始年度	S60	事業終了予定年度		作 組 織	観光振興課		
		根拠法令 ・計画等	新ほっと石川観光プラン				成 職・氏名	主事 正木 康子	
						者 電話番号	076 - 225 - 1538 内線 3929		

事業の背景・目的
 石川らしい観光地づくりを目指し、観光資源の多様な活用により、観光地の活性化を図るため、観光石川の魅力を県内外にアピールすることで、本県のイメージアップと観光誘客の促進を図る。

事業の概要
 ○フードピア金沢開催事業費補助
 (1) 事業目的石川ならではの風土とそれが育てた「食」を広く体験するイベントのフードピア金沢の事業を助成することにより、石川の食と伝統文化を全国に向けて発信し、本県のイメージアップを図るとともに、冬期観光閑散期の誘客促進に資する。
 (2) 事業概要
 ①期 日 平成25年2月1日～2月28日
 ②会 場 金沢市内
 ③内 容 食談
 雪見のうたげ
 フードピアランド
 しいのき迎賓館を中心としたエリアでのイベント

補助金交付先: フードピア金沢開催委員会

これまでの見直し状況
 第21回目を迎える平成17年度の事業から、イベント参加者の裾野を広げる取り組みとして、Myフードピア事業を展開。これまでの食談、雪見宴会、フードピアランドの基本3事業の他にフードピア特別メニューの提供や老舗の店舗を活用したプチ食談を開催するなど、新たな参加者を増やす。また、県外からの誘客を目的に、旅行会社とのタイアップ等も図る。
 また、平成22年度は約20会場で行われていた食談については、料金を上限2万円に改め、厳選した有名料亭6会場にて、より廉価で著名人と語らいを楽しめるようにした。

施策・課題の状況

施策	3大都市圏誘客1000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進	評価	B		
課題	イベント、コンベンションの振興				
指標	コンベンション開催・参加者数	単位	件・人		
目標値	現状値				
平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
400	302	324	353	362	393
96,800	92,237	74,715	75,575	73,999	93,112

事業費						
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	7,000	5,600	5,600	5,600	5,040
	決算	7,000	5,600	5,600	5,600	5,040
一般	予算	7,000	5,600	5,600	5,600	5,040
財源	決算	7,000	5,600	5,600	5,600	5,040
事業費累計		23,695	29,295	34,895	40,495	45,535

評価

項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	開催期間中の総参加者数は14万7千人を超え、金沢の観光客誘致について一定の効果が出ていると考えている。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	冬季誘客のためのイベントとして定着しており、多くの方に参加いただいているため、これからもニーズを踏まえ、内容を見直しながら継続して実施する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 金沢城・兼六園四季物語開催事業費	事業開始年度	H14	事業終了予定年度		作 組 織 観光振興課 成 職・氏名 主事 高 慎太郎 者 電話番号 076 - 225 - 1542 内線 3926
	根拠法令・計画等	新ほっと石川観光プラン			

事業の背景・目的

石川らしい観光地づくりを目指し、観光資源の多様な活用により、観光地の活性化を図るため、金沢城公園や兼六園などを舞台に新しい観光の魅力を演出するイベント等を四季を通じて開催し、観光石川の魅力を県内外にアピールすることで、本県のイメージアップと観光誘客の促進を図る。

事業の概要

- 金沢城・兼六園ライトアップ**・・・四季折々の金沢城・兼六園の特徴を活かしたライトアップ・イベント
- 《 初夏の段 》 平成24年6月2日～3日
 - 《 秋 の 段 》 平成24年11月17日～18日、23日～25日
 - 《 冬 の 段 》 平成25年 2月1日～3日、8日～17日

負担金交付先: 石川の四季観光キャンペーン実行委員会

これまでの見直し状況

施策・課題の状況

施策	3大都市圏誘客1000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進				評価	B
課題	イベント、コンベンションの振興					
指標	コンベンション開催・参加数			単位	件・人	
目標値	現状値					
平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
400	302	324	353	362	393	
96,800	92,237	74,715	75,575	73,999	93,112	

事業費

(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費 予算	12,800	10,240	10,240	10,427	9,082
事業費 決算	12,800	10,240	10,240	10,427	9,082
一般 予算	12,800	10,240	10,240	10,427	9,082
財源 決算	12,800	10,240	10,240	10,427	9,082
事業費累計	52,800	63,040	73,280	83,707	92,789

評価

項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	石川県ならではの個性あるイベントとして県外観光客にも人気が高く、大手旅行会社が商品化するなど、多くの観光客に楽しんでもらっており、効果が高い。 参加者数 H23:54,929人 H24:70,461人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	北陸新幹線金沢開業を見据え、宿泊しなければ体験できない夜の観光資源という点で重要であり、引き続きその魅力をさらに高めるために、開催内容の充実に取り組む。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわスイーツ博開催事業費	事業開始年度	H24	事業終了予定年度		作 組 織	観光振興課	
	根拠法令 ・計画等	STEP21			成 職・氏名	技師 中村 恵美	
					者 電話番号	076 - 225 - 1542 内線 3925	

事業の背景・目的
 北陸新幹線開業に向け、本県の魅力をさらに高めていくための取り組みが必要となっていることから、女性等に人気の高いスイーツをテーマとした全国イベントを開催し、継続的なイベントに育て上げていくことで、交流拡大の機運の盛り上げを図る。また、このイベントでは、スイーツコンテストを開催して、スイーツ(菓子)どころ石川を発信するとともに、スイーツ等をテーマとした本県ならではのイベントを開催することで誘客を促進する。

事業の概要
 ◆いしかわスイーツ博2012の開催
 (1) いしかわスイーツコンテスト2012
 ①応募資格 全国の製菓学校に所属する学生
 ②表彰 知事大賞・・・1チーム、準大賞・・・1チーム、部門賞・・・3チーム
 ③スケジュール 5月:告知・募集開始
 9月10日:募集締め切り
 9月20日:一次審査(書類審査)
 9月27日:一次審査結果発表
 11月4日:決勝実技審査(会場:金沢製菓調理専門学校(金沢市長町))
 (2) いしかわスイーツフェア2012
 ①実施時期 平成24年11月3日(土・祝)～11月4日(日)
 ②会場 県立音楽堂交流ホール等
 ③内容 ・県内外和洋菓子店が一堂に集結したスイーツカフェ
 ・和菓子づくりなどの体験コーナー
 ・有名パティシエトークショーなど多彩なステージイベント
 ・兼六園や長町武家屋敷でのスイーツ茶会 など
 (3)主催 県、(社)石川県観光連盟
 (4)協力 石川県菓子工業組合、(社)石川県洋菓子協会
 (5)事業費 24,500千円
 (県15,000千円、その他市町等9,500千円)
 (6)交付先 (社)石川県観光連盟

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	3大都市圏誘客1,000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進			評価	B	
課題	観光地や温泉地の魅力アップと活性化					
	指標	観光地の入り込み客数			単位	千人
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	54,886	38,960	39,823	41,033	40,003	39,415

事業費					
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算				15,000
	決算				15,000
一般	予算				15,000
財源	決算				15,000
事業費累計					15,000

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	石川の魅力のひとつであり、財産でもある「菓子」を切り口としてコンテスト及びフェアの2つのイベントを同時開催することにより、本県ならではのイベントとして、19,500人に参加いただき、北陸新幹線金沢開業に向けた本県PRに一定の効果があった。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	北陸新幹線金沢開業に向け、特に首都圏での認知度向上に努め、県外からの誘客を図ることのできるイベントへと育ててゆく必要があることから、継続して実施していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	ウェルカムいしかわ推進事業	事業開始年度	H22	事業終了予定年度		作 組 織 観光推進課
		根拠法令 ・計画等	STEP21	成 職・氏名	主事 正木 康子	

事業の背景・目的
北陸新幹線金沢開業を見据え、「おもてなし」の心を持って観光客を迎え、観光地石川のより一層のイメージアップやリピーター客の確保につなげるため、県民総ぐるみで「おもてなし」向上に向けた取り組みを実施する。

- 事業の概要**
- (1)「ほっと石川おもてなし推進協議会」の運営
県民全体の意識の共有を図るとともに、おもてなし推進事業のエンジン役として、各市町・団体による自主的な取り組みを後押しする。
・設立:平成23年8月29日(月)
・構成:行政、観光事業者、交通事業者、経済団体、女性団体等26名(会長:石川県知事)
- (2)「観光おもてなし塾」の開催
観光事業者等の指導者層の底上げ、スキルアップを図る。
・対象:宿泊施設、観光施設、交通機関、ボランティア団体等に従事するリーダー
・内容:おもてなしに関する講義、グループディスカッション等
・回数:年6回(平成24年8月～2月)
- (3)「おもてなし講座」の開催
おもてなしについて考えるきっかけづくりを提供する。
・対象:公民館、女性団体、PTA等が実施する会合等
・講師:ほっと石川観光マイスター等
・内容:おもてなしとは何か、私たちにできるおもてなし等
・回数:年50回程度
- (4)「おもてなし地域ブランドづくり」の推進
特色あるおもてなしの取り組みを行う地域を広く周知・支援し、おもてなし力のさらなる底上げを図る。
・加賀地区:「レディ・カガ」と知事とのおもてなし対談、講演会を実施(平成24年4月21日)
・金沢地区:様々な分野でおもてなしに取り組む方々の対談、講演会を実施(平成24年11月)
・能登地区:新幹線終着駅のその先にある温泉地が一堂に介し、事例発表、講演会を実施(平成24年秋)

これまでの見直し状況

施策・課題の状況					
施策	3大都市圏誘客1,000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進			評価	B
課題	人材の育成				
指標	ボランティアガイド団体・参加者数			単位	団体・人
目標値	現状値				
平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
30団体:800人	26団体:993人	26団体:1040人	25団体:836人	25団体:836人	27団体:882人

事業費						
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算			5,000	4,100	8,300
	決算			5,000	4,100	8,300
財源	予算			5,000	4,100	8,300
	決算			5,000	4,100	8,300
事業費累計				5,000	9,100	17,400

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	観光事業者、交通事業者をはじめ、地域住民など、県内全域で「おもてなし」向上に向けた取り組みを実施し、おもてなし意識の醸成を図った。県が率先しておもてなし力向上の取り組みを行うことで、各地域や団体による自発的な取り組みも広がってくるなど、一定の効果が得られた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	北陸新幹線金沢開業が迫る中、「おもてなし」向上の運動を県内へ波及させるため、各地域で特色ある推進大会を開催するほか、県民の「おもてなし」への思い等を募集し、県民に広く周知するなど、継続しておもてなしについての取り組みを行う。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 ほとと石川観光キャンペーン推進事業費	事業開始年度	H6	事業終了予定年度	H26	作 組 織 観光振興課
	根拠法令 ・計画等	新ほとと石川観光プラン			成 職・氏名 主事 中島 光裕 者 電話番号 076 - 225 - 1539 内線 3922

事業の背景・目的
 北陸新幹線金沢開業を見据え、アクションプラン「STEP21」の重点プロジェクトや交通インフラの積極的活用、温泉旅館等の活性化支援を推進するとともに、多様化する旅行者のニーズに対応した情報発信や、テーマを絞った情報発信、特定機関を対象とした誘客促進などを行うことにより、「新ほとと石川観光プラン」に掲げた三大都市圏誘客1000万人構想の実現を目指す。

- 事業の概要**
1. 三大都市圏1,000万人誘客キャンペーン事業
 - (1) 首都圏雑誌広告掲載
 - (2) いしかわにふれる旅づくり事業
 - (3) JRタイアップキャンペーン(北陸三県誘客促進協議会)
 - (4) 石川の農林漁業まつりや県内外のイベントに「ふるさとの匠」を派遣し、広く一般の方々に古くから育まれてきた技や知恵にふれてもらうことで石川の魅力を発信
 - (5) キャンペーングッズ等作成
 2. その他地域を特定しない効果的な情報発信
 - (1) オーケストラ・アンサンブル金沢情報発信
 - (2) 安近楽イベント情報の製作
 - (3) 新聞・雑誌への掲載事業・マスメディアを活用した情報発信 など
 3. 加賀百万石の旅
 - (1) 百万石風情の旅
 - (2) 加賀百万石ウォーク

交付先:(社)石川県観光連盟 会長 谷本正憲

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	3大都市圏誘客1,000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進				評価	B
課題	効果的な情報発信					
指標	観光地入り込み客数			単位	千人	
目標値	現状値					
平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
54,886	38,960	39,823	41,033	40,003	39,415	

事業費					
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費 予算	91,080	98,948	74,150	55,850	47,980
事業費 決算	91,080	98,948	74,150	55,850	47,980
一般 予算	91,080	98,948	74,150	55,850	47,980
財源 決算	91,080	98,948	74,150	55,850	47,980
事業費累計	187,227	286,175	360,325	416,175	464,155

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	情報発信を中心とした、様々な観光キャンペーンを実施することにより、東京スカイツリーのオープンにより関東方面への観光が増加する中、本県への入り込み客数減少を最小限に抑えることが出来た。 (H23→H24:98%)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	新ほとと石川観光プランに掲げる「三大都市圏誘客1000万人構想」達成のため、引き続き三大都市圏からの誘客促進に取り組んでいく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 首都圏交通機関タイアップ情報発信事業	事業開始年度	H24	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等	新ほっと石川観光プラン		

作成者	組織	首都圏戦略課		
	職・氏名	主事 宮本 隆希		
	電話番号	076 - 225 - 1537 内線 3944		

事業の背景・目的
北陸新幹線金沢開業を見据え、首都圏における認知度向上のため、交通事業者のネットワークを活用することにより、効率的かつ効果的な情報発信を行い、誘客促進を図る。

事業の概要

(1) 首都圏私鉄とのタイアップ
京浜急行電鉄、京王電鉄、江ノ島電鉄と連携し、電車内や駅構内でのポスターの掲出
東京メトロと連携し、車内ドア上モニターで石川県の観光PRCMを放映

(2) JR東日本(びゅう事業部)とのタイアップ
JR東日本管内における車内広告や駅構内でのポスター掲出

(3) 日本航空とのタイアップ
・機内誌「skyward」で石川県の観光に関する特集記事を掲載
・国内線機内で石川県の観光PR番組を上映
・国内線ファーストクラスの夕食に石川県産の素材を使用した料理メニューを提供
・日本航空ホームページ内に特集ページを掲載しPR

(4) 事業費
14,000千円(県8,000千円、その他市町等6,000千円)

(5) 交付先
(社)石川県観光連盟

これまでの見直し状況

施策・課題の状況							
施策	3大都市圏誘客1,000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進				評価	B	
課題	効果的な情報発信						
	指標	観光地入り込み客数				単位	千人
	目標値	現状値					
	平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	54,886	38,960	39,823	41,033	40,003	39,415	
事業費							
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
事業費	予算					8,000	
	決算					8,000	
一般財源	予算					8,000	
	決算					8,000	
	事業費累計					8,000	
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
	事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	平成24年に開業した東京スカイツリーの影響で、全国的に関東方面への観光が増加する傾向が見られた中で、首都圏からの入込客数が平成23年度と比べ約1%増となった。				
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	北陸新幹線金沢開業まで2年をきり、首都圏に向けた情報発信については、今以上に強化して取り組む必要があることから、平成25年度は、連携する私鉄の数を増やすほか、私鉄のグループ会社(百貨店やホテル等)とも連携を図り、首都圏からの誘客の取り組みを強化する。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	国内戦略的情報発信事業	事業開始年度	H24	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作	組	織	観光振興課		
成	職	氏名	主事 加茂野 優子		
者	電	話	番	号	076 - 225 - 1539 内線 3921

事業の背景・目的
北陸新幹線金沢開業を見据え、インターネットを活用し、時流に沿った魅力的かつ戦略的な情報発信を図る。

事業の概要
(1) 企業会員への誘客プロモーション
→ 福利厚生代行会社(会員企業数: 約8,000社(うち首都圏約3,000社)、従業員数約280万人(うち首都圏約140万人)と連携した会員への情報発信
※ 福利厚生代行会社とは… 各種宿泊・レジャー等の余暇支援サービスや、育児・介護等の生活支援サービスを、民間企業や公官庁から一括契約(代行)し、契約企業の社員限定に割安な会員価格で提供する企業
① 会員専用HPで特集ページを掲載(100万アクセス/月)
② 会員へのメールマガジン配信(30万通)
③ 会員向けの会報誌による情報発信(100万部発行)
④ 目標送客数の設定と達成保障
※ 送客目標を設定し、達成するまで誘客プロモーション実施

(2) 大手旅行予約サイトを活用した情報発信
→ 大手旅行予約サイト利用者への情報発信
① トップページに本県特集ページの掲載(1カ月×5回)
② 特集ページへ誘導するための会員向けメルマガ配信(5回 計504万通)

(3) 事業費
12,000千円(県6,000千円、その他市町等6,000千円)

(4) 交付先
(社) 石川県観光連盟

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	3大都市圏誘客1,000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進				評価	B
課題	効果的な情報発信					
	指標	観光地入り込み客数			単位	千人
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	54,886	38,960	39,823	41,033	40,003	39,415
事業費						
	(単位: 千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算					6,000
	決算					6,000
一般財源	予算					6,000
	決算					6,000
事業費累計						6,000
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	福利厚生代行会社と連携した企業会員への誘客プロモーションについては、当会員からの県内予約人泊数が6,088人泊となり、前年同時期(夏期休暇: 6~9月)と比べ、約2,500人泊増となった。 また、大手旅行予約サイトを活用した情報発信については、年5回の特集を実施したが、前年同時期に比べ、当サイトからの県内予約人泊数が計30,287人泊増となり、取り組みの成果が大きかったことが伺える。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	見直し	今年度初めて実施した福利厚生代行会社との連携によるプロモーションの成果が好調だったことから、来年度は新たに1社から2社に連携を増やし、企業会員へのダイレクトなアプローチによる誘客プロモーションをさらに拡大していく。 また、インターネットサイトを通しての旅行予約者が多いことから、引き続き、大手旅行予約サイトを活用し、石川の特徴や季節ごとの旅行者のニーズに合った情報発信を進めていきたい。				